



40 代向け資産運用ポートフォリオ

当資料は 2021 年 5 月時点でのものです。

- ・足下は低金利環境下であり、債券の魅力（期待リターン）が低いこと、また今後、金利が上昇すれば、債券価格が下落し損失を被る可能性も相応にあることから、債券への投資は見送りました。しかしながら、金利が上昇してきた際には、債券の組入（ポートフォリオの変更）も行うべきと考えております。
- ・また、（パターン A）の場合は、運用期限を 10 年としていることから、期限が近づいてくるに連れ、リスクを引き下げる必要があることから、預金やリスクの低い債券の組入比率引き上げの必要があると思っております。
- ・なお、今回の設定（初めて運用する方）を鑑み、個別銘柄ではなく、銘柄が分散されたプロが運用する投資信託を採用することにしました

パターン A：子どもの教育資金を 10 年以内にためたい	
おすすめの投資種類 1 とその割合	先進国株式（40%）
└上記の理由	<p>金融資産運用の柱となるのは株式との認識</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資本主義経済の基では、長期的には株式（資本）から得られる収益は労働から得られる収益を上回ることに加え、インフレヘッジが可能な資産 ・株式市場は GDP との相関が高く、GDP 成長が見込める国の株価は拡大する可能性が高い。特に米国等、GDP 成長が高い国の株価は、高い上昇が期待できる ・なお、政治・経済面での安定性等を総合的に鑑み、先進国株式を今回の投資の主軸とした
└おすすめの銘柄	<p>ニッセイ外国株式インデックスファンド</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本を除く主要先進国の株式に分散投資 ・同カテゴリーで純資産額が最大 ・信託報酬も最安値圏
おすすめの投資種類 2 とその割合	国内株式（20%）
└上記の理由	<ul style="list-style-type: none"> ・金融資産運用の柱となるのは株式との認識 ・資本主義経済の基では、長期的には株式（資本）から得られる収益は労働から得られる収益を上回ることに加え、インフレ

	<p>ヘッジが可能な資産</p> <ul style="list-style-type: none"> ・株式市場は GDP との相関が高く、GDP 成長が見込める国の株価は拡大する可能性が高い（日本も低水準ながら成長見込み） ・日本の株式市場は、世界 3 位の市場規模を誇り、為替リスクもないことから、一定の資産を配分
<p>└おすすめの銘柄</p>	<p>ひふみプラス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・（日本経済は低成長見込みであること等を鑑み）インデックスをアウトパフォームすることが期待できるアクティブファンドを選定（長期間に渡りベンチマーク（TOPIX）をアウトパフォーム） ・相場下落局面で株式の組入比率を引き下げる（＝リスクを引き下げ）オペレーションを実施すること等を評価
<p>おすすめの投資種類 3 とその割合</p>	<p>国内 REIT（15%）</p>
<p>└上記の理由</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・株式と並んで、長期的には不動産（資本）から得られる収益は労働から得られる収益を上回ることに加え、インフレヘッジが可能な資産である ・収益の 90% 超を分配することで実質的に法人税がかからず、比較的安定した分配金が得られる ・実物不動産に投資する場合は、多額の資金が必要であるが、REIT は少額投資が可能で、また複数の不動産に分散投資しているため、リスクも分散
<p>└おすすめの銘柄</p>	<p>eMAXIS Slim 国内リートインデックス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同カテゴリーで信託報酬が最安 ・純資産額も十分
<p>おすすめの投資種類 4 とその割合</p>	<p>海外 REIT（15%）</p>
<p>└上記の理由</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・株式と並んで、長期的には不動産（資本）から得られる収益は労働から得られる収益を上回ることに加え、インフレヘッジが可能な資産 ・実物不動産に投資する場合は、多額の資金が必要であるが、REIT は少額投資が可能で、また複数の不動産に分散投資して

	<p>いるため、リスクも分散</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域分散の観点から海外 REIT も選定
おすすめの銘柄	<p>eMAXIS Slim 海外リートインデックス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同カテゴリーで信託報酬が最安 ・純資産額も十分
おすすめの投資種類 5 とその割合	<p>金 (10%)</p>
└上記の理由	<ul style="list-style-type: none"> ・埋蔵量が限られる中、各国の政府・中央銀行が輸入代金の決済や有事に備え金を保有（金準備）しており、また、実需のニーズ（宝飾品・産業・歯科等）も旺盛で、価格が下がり難い状況にある（むしろ上昇傾向にあるとも言える） ・インフレヘッジが可能 ・有事の際や、株式市場下落の際のヘッジが可能
おすすめの銘柄	<p>三菱 UFJ 純金ファンド（愛称：ファインゴールド）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同カテゴリーでの純資産額が最大 ・運用実績も長い
その他、補足事項	<ul style="list-style-type: none"> ・10年間の運用を前提にリスクに目を向け、ヘッジ資産的要素の強い金を組み入れ ・一方の期待リターンは高いものの、リスクが大きい新興国株式は組み入れず ・また、ポートフォリオ全体に占める株式のウェイトを 60%と（パターン B）に比べ少し低めに設定

パターン B：老後の資金を定年までにためたい

おすすめの投資種類 1 とその割合	先進国株式（45%）
└上記の理由	上記ご参照
└おすすめの銘柄	上記ご参照
おすすめの投資種類 2 とその割合	国内株式（25%）
└上記の理由	上記ご参照
└おすすめの銘柄	上記ご参照
おすすめの投資対象 3 とその割合	新興国株式（10%）
└上記の理由	<ul style="list-style-type: none"> ・ 経済成長率の高い国が多く、期待リターンが高い ・ 一方で、政治面等不安定な面もあり、リスクも相応に高い ⇒従って、投資するにあたり、長期間で運用を前提とすることや、保有ウェイトをコントロールしリスク低減を図る必要性あり
└おすすめの銘柄	eMAXIS 新興国株式インデックス <ul style="list-style-type: none"> ・ 同カテゴリーで信託報酬が最安値 ・ 同カテゴリーで純資産額も最大
おすすめの投資対象 4 とその割合	国内 REIT（10%）
└上記の理由	上記ご参照
└おすすめの銘柄	上記ご参照
おすすめの投資対象 5 とその割合	海外 REIT（10%）
└上記の理由	上記ご参照
└おすすめの銘柄	上記ご参照

その他、補足事項	<ul style="list-style-type: none">・長期運用を前提にリターンに目を向け、期待リターンが高い新興国株式を組み入れ・一方、ヘッジ資産的要素の強い金は組み入れず・また、ポートフォリオ全体に占める株式のウェイトを80%と(パターンA)に比べ高めに設定
----------	--